



暮らし・福祉・教育優先の市政をめざして

みんなが
 (住) (ん) (で) (よ) (か) (っ) (た)
 と思える川西市に...

たんぽぽだより

日本共産党川西市議会議員 黒田みち

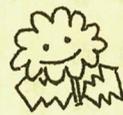
市議会議員団控え室 TEL 740-1111 (内線4020)

直通FAX 759-1811

黒田みち事務所 TEL 795-4760

たんぽぽだよりブログ

http://kurodamich.exblog.jp



県、4度目の緊急事態宣言

川西市も1日2桁、予断許さず



川西市の新規感染者

直近1週間	新規感染者数
8月14日	13人
15日	17人
16日	11人
17日	8人
18日	1人
19日	17人
20日	12人

区分	確保病床	患者数	利用率
入院	1237	824	66.6%
うち重症対応	142	62	43.6%
宿泊	1475	817	55.3%
合計	2712	1641	60.5%

※ 川西市8月20日現在1241人(2市1町自治体名非公表152人)

(病院特別委員会)

最前線の奮闘に感謝の意 地域医療の拠点守ろう

8月19日開催の市立病院整備調査特別委員会で、市立川西病院の運営状況等についての報告がありました。

私(黒田)は新型コロナウイルス感染症が猛威をふるうなかで、クラスターの発生もなく公立病院としての役割を果たし、いのちの最前線で尽力・奮闘されている職員・関係者の方々に心からの感謝の意を伝えました。

市に対しては繰り返し、現病院の存続と市内急病ベッド158床削減を見直すよう強く求め続けていますが、本委員会でも医療の逼迫で「自宅療養」という名の「自宅放置」が広がっている現状から考え、ベッド削減や北部から二次救急病院をなくす医療計画を見直すべきだと強く求めました。

一般の病気や怪我などの対応が危機に陥り、気候変動による自然災害が頻発、被害が多発している中で、地域医療の拠点やベッド削減など絶対に許せません。住民の命を守ることこそ自治体の一番の責務です。諦めず訴え続けます。

(表1) 職員数の推移 (人)

常勤職員数 (人)			元職員			他		
R2			R3			月		
4	医師	38	7	33	12	5	167	74
	看護師	150		51	16	1	52	0
	医療技術	54		303	102			
	事務	19						
	計	261						

(全員指定管理者・協和会職員)

川西病院 2020(R2)年度の経営結果

入院、補助金増で7億円の黒字(協和会利益)

2020(R2)年度の病院経営では、11月から4階北病棟を再開し、ベリタス病院の救急受入休止等に伴う対応で入院患者と手術が増加。新型コロナウイルス陽性者の入院単価の上昇もあって、前年度比約3億円の増収となりました。また、コロナ感染症にかかる国からの補助金約15億円を計上し、7億3069万円の黒字となりました。指定管理者の協和会の利益です。

2019(R元)年4月から指定管理者(協和会)制度導入当初か

ら課題だった4階北病棟は、再開されましたが、看護師配置は未だ10:1のままで7:1の看護体制にもどっていません。

職員数の推移(表1)をみても来秋のキセウ新病院(405床)移行時に医師約80人、看護師約400人、医療技術職員約100人等の職員は確保できるのでしょうか。開設予定の診療科や高度な医療提供の確保も懸念されます。

外来 初診時費用2倍化で減少

外来患者が減った(表2)要因に「初診時選定療養費」の大幅値上げがあります。2200円から5000円に引き上げ、再診時選定療養費2500円とともに大きな患者負担となっています。

初診患者は4月の1163人から10月824人にまで減少。受診抑制になっていないか案じられます。

医療費抑制のためにどんどん改悪される医療制度。75歳以上の医療費2倍化も決められており、国の悪政にも声をあげ変えていかなければなりません。

看護助手として働くベトナム人留学生(約10人)に対しては協和会任せではなく、市の病院で働く人への総合的な環境作りを行うこと、在宅のコロナ患者への支援(緊急時、伊丹健康福祉事務所に代わってパルスオキシメーターを届ける等医療機関や関係機関とも連携すること等要望や確認をしました。

※自宅療養者支援事業～食料品や日用品等配布

(市危機管理課 072-740-1145)

お詫びと訂正・・・NO226裏面・2段目、最後の行の印刷が切れていました。ごめんなさい。(下線部分が切れていた処です)

Ⓜ「私(黒田)は、現川西病院の存続・活用、北部医療の確保に向けて諦めず取り組みます。」これからは、気をつけますⓂ